

熊本城砂像 鹿児島との絆

吹上浜砂の祭典

熊本市の崇城大学の学生ら4人が、南さつま市で5月3日開幕する「吹上浜砂の祭典」に、熊本城の砂像を出展する。会場の「砂丘の杜きんぼう」で砂像を作り終え、「城は熊本の本のシンボル。県民を勇気づけたい」と本番を待ち望んでいる。

(23面に関連記事)

昨年の熊本地震の復興応援にと、主催側が大学に制作を依頼した。芸術学部の中元香代子教授(63)は霧島市出身。IIが過去に祭典の

熊本城の砂像を造る崇城大学生の奥森日向子さん(後列右)らと中元香代子教授(中央)
II 23日、南さつま市金峰町高橋



霧島出身 崇城大生ら制作

コンテスト審査を務めた縁もあり、「30年続く祭典は鹿児島、九州の誇り」と引き受けた。

4人は同学部彫刻コース。霧島市出身の2年奥森日向子さん(19)のほか、大学院2年安森大樹さん(23)、同1年山下智愛さん(22)と卒業生の東耕平さん(33)。授業の合間を縫い、4月21〜23、25日に南さつま市に駆け付け制作。市民の手助けを受けながら高さ3層の城を築き上げた。

地震時、奥森さんは入学したばかり。頼れる知り合いはまだ少なく、避難したコンビニのエンストアで上着を貸してもらい、飲み物ももらった。「みんないい人ばかり。大好きな熊本のために、今後も活動したい」

山下さんは自宅が半壊し、ひと月近く避難所生活が続いた。熊本城は通学時、毎日のように目にする。「砂像を通じて熊本は頑張っている」とアピールできれば」と力を込めた。

(清水裕貴)